

社会システム研究科 社会システム研究科 博士後期課程 ( 2007年度入学生 )

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■地域社会領域	都市行政研究	1学期		2	1
	山崎 克明				
	市民人権研究	1学期		2	2
	落合 俊行				
	企業経営研究	1学期		2	3
	王 効平				
	企業会計研究	1学期		2	4
	白石 和孝				
	都市犯罪研究	1学期		2	5
	朴 元奎				
	都市情報工学研究	1学期		2	6
	吉田 祐治				
	政策法務研究	1学期		2	7
	岡本 博志				
	社会行動研究	1学期		2	8
松尾 太加志					
地域臨床教育研究	1学期		2	9	
楠 凡之					
地域産業集積研究	1学期		2	10	
柳井 雅人					
地域福祉政策研究	1学期		2	11	
吉村 弘					
都市環境政策研究	1学期		2	12	
松本 亨					
都市政策論研究	1学期		2	13	
奥山 恭英					
都市社会研究	1学期		2	14	
稲月 正					
地域金融研究	1学期		2	15	
木村 温人					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域社会領域	高齢者福祉研究 石塚 優	1学期		2	16
	地域観光研究	1学期		2	
	地域社会演習 稲月 正	2学期		2	18
■思想文化領域	市民政治思想研究 中道 壽一	1学期		2	
	市民経済思想研究 小柳 公洋	1学期		2	20
	日本語文化研究 矢野 準	2学期		2	
	英語文化研究 木下 善貞	1学期		2	22
	中国語文化研究 佐藤 昭	1学期		2	
	思想文化演習 中道 壽一	2学期		2	24
	人間環境研究 竹川 大介	1学期		2	
	人間心理研究 近藤 倫明	1学期		2	26
	多文化コミュニケーション研究 山崎 和夫	1学期		2	
	文化交流史研究 八百 啓介	1学期		2	28
■東アジア社会圏領域	東アジア政治研究 横山 宏章	1学期		2	
	東アジア経済研究 尹 明憲	2学期		2	30

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア社会圏領域	東アジア国際関係研究 金 鳳珍	1学期		2	31
		1年			
	東南アジア政治研究 田村 慶子	1学期		2	32
		1年			
	東南アジア歴史文化研究 伊野 憲治	1学期		2	33
		1年			
東アジア社会圏演習 横山 宏章	2学期		2	34	
	1年				
国際協力研究 大平 剛	1学期		2	35	
	1年				
東アジア政治史研究 小林 道彦	1学期		2	36	
	1年				
■特別研究	特別研究 ( D)IA 吉田 祐治	1学期	1	2	37
		1年			
	Special Research Topics (D) 1A 谷村 秀彦	1学期	1	2	38
		1年			
	Special Research Topics (D) 1A 戴 二彪	1学期	1	2	39
		1年			
	特別研究 ( D)IB 吉田 祐治	2学期	1	2	40
		1年			
	Special Research Topics (D) 1B 谷村 秀彦	2学期	1	2	41
		1年			
	Special Research Topics (D) 1B 戴 二彪	2学期	1	2	42
		1年			
特別研究 ( D)IIA 吉田 祐治	1学期	2	2	43	
	2年				
Special Research Topics (D) 2A 谷村 秀彦	1学期	2	2	44	
	2年				
Special Research Topics (D) 2A 戴 二彪	1学期	2	2	45	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 ( D)IIB 吉田 祐治	2学期	2	2	46
		2年			
	Special Research Topics (D) 2B 谷村 秀彦	2学期	2	2	47
		2年			
	Special Research Topics (D) 2B 戴 二彪	2学期	2	2	48
		2年			
	特別研究 ( D)IIIA 吉田 祐治	1学期	3	2	49
		3年			
	Special Research Topics (D) 3A 谷村 秀彦	1学期	3	2	50
		3年			
Special Research Topics (D) 3A 戴 二彪	1学期	3	2	51	
	3年				
特別研究 ( D)IIIB 吉田 祐治	2学期	3	2	52	
	3年				
Special Research Topics (D) 3B 谷村 秀彦	2学期	3	2	53	
	3年				
Special Research Topics (D) 3B 戴 二彪	2学期	3	2	54	
	3年				
■国際開発政策コース	Multinational Corporations エリック・ラムステッター	1学期		2	55
	Seminar in International Development Policy 谷村 秀彦	2学期		2	56
	Seminar in International Development Policy エリック・ラムステッター	2学期		2	57
Seminar in International Development Policy 戴 二彪	2学期		2	58	
Economic Growth and Development ファン ウイガク	1学期		2	59	

# 都市行政研究 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 克明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

北九州を素材にコミュニティ・ガバナンス（＜地域協治＞）を考える。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 岡本栄一・山崎克明編著『北九州発 21世紀の地域づくり』（中央出版 2001）
  - 北九州産業社会研究所編『21世紀都市の産業と社会』（海鳥社 2003）
  - 山崎克明編『ホームレス自立支援』（明石書店 2006）
  - “Democracy and Governance Networks: Compatible or Not?”, in Public Administration, Vol.85, No.3., 2007(587-608)
- その他、主にイギリスの文献。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席と発言の内容。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 市民人権研究 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

2008年アメリカ大統領選挙で民主党のバラク・オバマが勝利しました。オバマ政権の政策とアメリカの政治システム・選挙制度などについて学びます。また、政権交代した日本の政治状況についても、活字メディアや電波メディア（英語）を使って多角的に勉強します。

## 教科書 /Textbooks

Barack Obama 「The Audacity of Hope」  
Peter Wallison and Joel Gore 「Better Parties, Better Government」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から3回 オバマの半生とオバマの勝利演説・就任演説  
4回から6回 アメリカの議会制度  
7回から9回 アメリカの裁判制度  
10回から14回 アメリカの選挙制度  
15回 まとめ(政治制度の日米比較)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業発言・討論 ...50 % 定期試験... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日英字新聞(ジャパン・タイムズ)を読むこと。テレビのニュースやドキュメント番組を見ること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業経営研究 【昼】

担当者名  
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次  
/Year

単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

国際経営比較の観点から、多国籍企業の経営国際化の背後にある論理を探りながら、特に東アジア新興工業国の高成長を牽引してきたアジア財閥系企業を対象に、その経営構造、経営国際化の特徴の分析に焦点を絞る。深い相互依存関係にある東アジア地域の経済発展のダイナミズムを日本の地域経済活性化のために如何に取り込み、活かすかとの問題意識を持ちながら、フィールドワークを続けてきたが、現地調査で得た生の情報をフルに生かす形で企業経営に対する深い洞察力を養っていく。

## 教科書 /Textbooks

受講者と協議して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『岐路に立つ韓国企業経営』名古屋大学出版会、1994年  
『華人系資本の企業経営』日本経済評論社、2001年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 学生の関心領域の確認、本科目の狙い、進捗方法に関する説明、テキストの決定
- 第2回 アジア型企業経営に関する概説
- 第3回 東アジア地域上場企業の種類・整理
- 第4回 企業制度分析の視点
- 第5回 経営システム分析の視点
- 第6回 韓国財閥系企業の経営制度
- 第7回 韓国系企業の経営システム
- 第8回 華人財閥系企業の経営制度
- 第9回 華人財閥系企業の経営システム
- 第10回 日本の同族企業の経営制度
- 第11回 日本の同族企業の経営システム
- 第12回 東アジア域内における比較分析
- 第13回 東アジア域内事業連携の事例研究I
- 第14回 東アジア域内事業連携の事例研究II
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究分析・発表への参加度、出来具合をもとに、総合的に評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業会計研究 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

企業会計の主要な基本的・現代的課題を取り上げ、個別具体的な検討を行う。講義では、「発表者による発表→解説→質疑応答・ディスカッション」を毎回繰り返し行うことになるので、必ず予習し、議論に積極的に参加するようお願いしたい。そのほか、毎回講義の最初には「会計に関する重要な新聞記事」を取り上げ、詳しく解説したいと考えている。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第10版〉』（中央経済社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中級～上級会計学のテキストを輪読する。企業会計の主要な基本的・現代的課題を取り上げ、個別具体的な検討を行いたい（発表→解説→質疑応答・ディスカッション）。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80%      ディスカッションへの参加... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市犯罪研究 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「地域社会（都市コミュニティ）と犯罪」をテーマに、1920年代後半に生成したいわゆる「シカゴ学派」による伝統的な生態学的研究（ショー＝マッケイ等）と1970年代中葉以降に復活したシカゴ学派の新しい理論的發展を分析・検討することが、本講義の目的である。アメリカの都市コミュニティから生まれた社会学的犯罪学の理論が果たして北九州の地域社会における犯罪・非行問題を説明する理論としてどこまで有効・妥当であるかを考究したい。

## 教科書 /Textbooks

Reiss, A.J. and Tonry, M. (Eds.). (1986). Communities and Crime. Chicago: University of Chicago Press.  
 Sampson, R. J. (1995). The Community. In J. Q. Wilson & J.Petersilia (Eds.), Crime (pp.193-216). San Francisco, CA: ICS Press.  
 Wikstrom, P. H. (1998). Communities and Crime. In M. Tonry (Ed.), The Handbook of Crime and Punishment (pp.269-301). New York: Oxford University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ①Brantingham, P.J. & Brantingham, P.L. (Eds.). (1981). Environmental Criminology. Beverly Hills,CA: Sage.
- ②マーカス・フェルソン（守山正訳）『日常生活の犯罪学』（日本評論社、2005年）
- ③Maguire, M., Morgan, R. & Reiner, R. (Eds.). (2002). The Oxford Handbook of Criminology (3rd ed.). Oxford: Clarendon Press

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 履修学生と相談の上、分担を決めテキストを輪読する。
- 3回～14回 以下同じ
- 15回 レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市情報工学研究【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

高度情報化社会における情報の不確実性は社会に及ぼすリスクを内包している。本講義では、広い意味での不確実な情報の性質について数理工学的表現を考察し、不確実性環境下での個人やグループ全体としての数理的意決定の方法について論じる。偶然性やあいまい性を伴う意決定モデルとそれらの意決定の計算法についてコンピュータ・シミュレーションによる方法を展開する。

## 教科書 /Textbooks

なし、プリント、国際学術論文等

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- Introduction to Probability Models, Academic Press, S.M.Ross
- Fuzzy Systems and Fuzzy Logic: Theory and Application, Prentice Hall, G.J.Klir & Bo Yuan

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回～第 2 回 情報に関する不確実性。  
【蓋然性、偶然性】【あいまい性】【不確実性と不確定性】。
- 第 3 回～第 4 回 時系列の情報システムにおける不確実性。  
【確率過程】【ファジィ・システム】【複雑系システム】。
- 第 5 回～第 6 回 不確実性を伴うシステムの数理的表現。  
【マルコフ過程】【ファジィ推論システム】【カオス・システム】。
- 第 7 回～第 8 回 不確実性環境下での個人やグループ全体としての意決定の方法。  
【効用理論】【可能性理論】【必然性理論】。
- 第 9 回～第 10 回 客観的数理的評価法と主観的数理的評価法。  
【平均評価】【積分評価】【主観的積分評価】【順序付け法】【多目的評価法】。
- 第 11 回～第 12 回 不確実性環境下での時間を伴う意決定の方法。  
【動的計画法】【最適性の原理】【マルチンゲール法】。
- 第 13 回～第 14 回 数理工学的計算法。  
【差分近似法】【モンテカルロ・シミュレーション】【変分法】。
- 第 15 回 不確実環境での人工知能的意決定法。  
【preferences】【aggregation】【学習モデル】。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席を評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 政策法務研究 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

地方公共団体における「政策法務」の課題と具体的諸問題について考察する。

## 教科書 /Textbooks

石森久広著『政策法務の道しるべ』（2008年、慈学社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義』（2006年、商事法務）  
 西尾勝・神野直彦編集代表、磯崎初仁編著『政策法務の新展開』（2004年、ぎょうせい）  
 阿部泰隆他監修、法政策研究会『法政策学の試み』（2000年、信山社）  
 阿部泰隆著『政策法学と自治体条例』（1999年、信山社）  
 小早川光郎編著『地方分権と自治体法務』（1999年、ぎょうせい）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを順次読み進めながら問題点を検討する。  
 （報告と討論による。）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50% 報告と討論 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者の報告をもとに検討するので、担当者は 各回についてあらかじめ調べておくことが必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会行動研究 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

現代都市社会の課題を社会的行動に焦点を合わせて探り、社会的政策への提言を作成するための研究方法を考察する。特に、さまざまな場面での機械を利用する上でのヒューマンインタフェースの問題、ヒューマンエラーによる事故防止、新しいメディアを利用したコミュニケーションのあり方などの今日的で重要課題とされている問題を取りあげ、これらの問題の背景にある社会のおよび認知的心理過程を検討する。国内外の文献購読により、最新の知見、理論、研究方法を展望する能力を育てる。心理学の主要な研究技法である実験や質問紙調査を行いデータを収集し、さらにその分析技法を学ぶことによって、社会的課題の問題発見、解決能力という実践的な研究能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～14回 実験や調査の研究事例について、受講生が文献レビュー。あるいは、受講者自身が取り組んでいる研究課題について発表をする。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

できる限り多くの論文を読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域臨床教育研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、1. 児童虐待問題への理解と援助・介入について、2. 「発達障害」をめぐる諸問題、3. 現代社会における青少年問題の発生機序とその克服に向けての援助・介入について、などのテーマについて、参加者の実践フィールドや興味・関心に合わせて検討を進めていきたい。

その際には、可能であれば、参加者からの具体的な実践報告、事例報告も受けながら、教育や地域福祉、さらには犯罪予防の問題について検討していきたいと考えている。

キーワードは青少年問題の発生機序、児童虐待問題、発達障害、などである。

## 教科書 /Textbooks

テキスト等については、参加者と相談して決定したい。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 個人研究発表
- 10回 個人研究発表
- 11回 個人研究発表
- 12回 事例報告
- 13回 事例報告
- 14回 事例報告
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%、期末レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実践現場におられる方は是非とも事例・実践報告の準備をお願いしたい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域産業集積研究 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 日本の産業集積地域に関するテキストを輪読してゆく。テキストに基づき、報告とディスカッションを中心として授業を進めてゆくこととする。

**教科書 /Textbooks**  
 初回に、数冊のテキストを詳しく紹介し、最も好ましいものを選択することとする。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 とくになし。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 イン트로ダクション
  - 2回 基礎的集積理論の習得 ( 1 )
  - 3回 基礎的集積理論の習得 ( " )
  - 4回 基礎的集積理論の習得 ( 2 )
  - 5回 基礎的集積理論の習得 ( " )
  - 6回 基礎的集積理論の習得 ( 3 )
  - 7回 基礎的集積理論の習得 ( " )
  - 8回 基礎的集積理論の習得 ( 4 )
  - 9回 基礎的集積理論の習得 ( " )
  - 10回 現代的集積理論の応用 ( 1 )
  - 11回 現代的集積理論の応用 ( " )
  - 12回 現代的集積理論の応用 ( 2 )
  - 13回 現代的集積理論の応用 ( " )
  - 14回 現代的集積理論の応用 ( 3 )
  - 15回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の学習状況・・・ 50% 課題・・・ 50%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 学部において、産業論、立地論を学習した経験があるほうが望ましい。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

## 地域福祉政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

我が国の福祉政策はある意味で転換期にある。人口減少・少子高齢・成熟社会を迎えて社会福祉に対する国民の意識は必ずしも一様ではなく、また、我が国は世界の中で豊かな社会と評価することは出来るが、かつてのような高度成長は望み得ない。このような社会での福祉政策は、単に要求するだけの福祉ではなく、福祉のサービスとコストを広く社会の中で評価し、社会的資源の有効配分の一環として行財政の制約と関連づけて考察することが必要である。現在注目を浴びている社会福祉基礎構造改革もこのような背景をもつものであり、「活力ある福祉社会」をめざして、地域福祉の供給主体の多様化や地域で支え合う福祉という姿勢を促す必要がある。このような統一的な考えに基づいて、履修生の学位請求論文の作成に直接役立つ内容としたい。そのために、授業では論文テーマの確立を目指して、履修生のテーマに沿った一部の内容を深く掘り下げて研究することとなる。授業全体のキーワードは、学位請求論文のテーマ選定・全体像の構築である。その成果は、研究構成フローチャートとして提出していただく予定である。

## 教科書 /Textbooks

特に設定しない。その都度示す。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に設定しない。その都度示す。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

履修生の学位請求論文の作成に直接役立つ内容とするために、履修生の過去の研究蓄積・学習状況・経歴等によって一様ではないが、たとえば次のような内容が考えられる。

- 1回・2回 現代社会と社会保障【社会保障】
- 3回・4回 現代社会と社会福祉【社会福祉】
- 5回・6回 現代社会と地域福祉【地域福祉】
- 7回・8回 先進国における社会福祉の展開【社会福祉発展史】
- 9回・10回 先進国における地域福祉の展開【地域福祉発展史】
- 11回・12回 日本における地域福祉の展開【日本の地域福祉発展史】
- 13回・14回 現代日本における地域福祉の課題と問題【地域福祉の課題】
- 15回 学位請求論文のためのテーマの選定・全体像の構築【論文テーマ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・ディスカッション... 50%、学位請求論文のためのテーマの選定・全体像の構築... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学位請求論文として意図する全体像を、可能な限り、準備しておいて欲しい。授業についての細かな注意は最初の授業の前に文書でお渡しします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市環境政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

北九州市をはじめとする日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するアジア等の諸国の先行モデルとして高い移転可能性を持つと言える。途上国の諸都市がそれぞれの置かれた状況を踏まえ、日本の環境対策の成功と失敗の経験を教訓として活かしていくことができれば、日本がかつて経験したような深刻な公害問題を回避することが可能である。さらに、後発性の有利さを活かすことによって、今後、効率的な環境対策の実施を行うことも可能である。そこで、環境問題の発生メカニズムとその対策について、日本及びアジアの諸都市の比較研究を行う。さらにアジアを中心とした途上国への移転可能性について考察する。

講義全体のキーワードは、公害対策、環境計画、都市環境マネジメント、低炭素・循環型社会である。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

勝原健『東アジアの開発と環境問題：日本の地方都市の経験と新たな挑戦』勁草書房  
 土木学会環境システム委員会編『環境システム』共立出版  
 日本の大気汚染経験検討委員会編『日本の大気汚染経験』ジャパンタイムス  
 日本水環境学会編『日本の水環境行政』ぎょうせい  
 『Environmental Performance Reviews: Japan』OECD  
 『Future Cities: Dynamics and Sustainability』Kluwer Academic Publishers  
 ほか多数(講義中に指示する)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～3回 日本の公害対策経験と北九州モデル  
 第4～6回 東アジア都市の都市環境管理の比較と北九州モデルの適用可能性  
 第7～9回 都市環境管理の方向と評価基盤  
 第10～12回 新たな都市環境政策の潮流  
 第11～14回 事例研究

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な参加...20%、事例報告及び討論...30%、期末レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでおくこと。また、授業で指示されたことを授業の事前事後に学習し、準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義のテーマは、「都市政策の経済分析」であり、そのねらいは都市経済学への勧誘と都市政策の分析・評価を試みることにある。したがって、その個別具体的な内容として、「都市がなぜ存在するのか」という基本問題に対する経済理論的な解明に加えて、「市場の失敗」や「政府の失敗」についての基礎的理解を深める。また、その応用として、各種の都市政策 - 例えば、土地問題、住宅問題、都市財政、都市交通、環境問題等 - に着目し、その有効範囲と限界について考察する。

## 教科書 /Textbooks

金本良嗣著『都市経済学』東洋経済新報社（1997）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

井原健雄著『地域の経済分析』中央経済社（1996）  
 金本良嗣・蓮池勝人・藤原徹著『政策評価ミクロモデル』東洋経済新報社（2006）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市化と都市政策
2. 都市空間と土地利用
3. 住宅市場の経済分析
4. 集積の経済と都市規模分析
5. 社会資本整備と便益評価
6. 都市財政と地方公共財
7. 都市交通と混雑の経済分析
8. 都市環境問題と環境政策
9. 新たな公共概念の検証

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習態度と期末のレポートの内容による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 「都市」を題材として、社会学の基本的考え方を学ぶ。今期は、都市下層研究を題材としながら理論と分析方法について理解を深める。なお、授業は演習形式も交えて行う。

**教科書 /Textbooks**  
 内外の都市下層研究についての文献リストをもとに最初の授業で決定する。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 授業中に、適宜、紹介する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 第1 オリエンテーション - 目的・進め方・テキストの選定  
 第2～第14回 テキスト批評  
 第15回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 課題(レポート)...70% 参加・貢献度...30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 何回かは分担を決めて報告してもらうことになるので、その準備が必要となる。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

## 地域金融研究 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 温人 / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

大学院前期課程における「地域金融研究」の講義を踏まえ、そこで分析されたそれぞれのテーマをさらに深く研究していく。例えば、アメリカの地域金融の中核であるコミュニティ銀行の今般のアメリカ金融危機の引き金にもなったサブ・プライムローンとの関わりや、韓国と日本における地域金融の類似性と相違点等の整理などを行う。また、わが国の地域金融の実態を上記の前期講義を引き継ぎさらに詳しく分析していく。そして、われわれ地元の北九州の地域金融の実態を、例えば、ベンチャービジネスの育成政策と併せて深く研究していく。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度テーマと講義の進捗度に併せて文献・資料等を指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

現実の金融動向と合わせた講義となるので、随時の変更等を交えたスケジュールとなる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・25% 課題・・・25% 期末試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

激変する金融状況をしっかりと把握し、その根底にある見えない動きを徹底的に見つめる姿勢を持って、広く深い情報の収集に努めてほしい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 高齢者福祉研究【昼】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

高齢者保健福祉の柱である介護保険制度の概要を講義するとともに、2006年法改正以降の3年間での問題点と改正された介護保険法の課題を検討する。また、人口構造の高齢化と少子化の現状、今後の人口構造の変化及び、それに伴う問題や課題について検討する予定。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 少子・高齢化、人口減少の推移と人口構造の変化【少子・高齢化、人口減少】
- 2回 人口転換に伴う社会的課題【人口転換】
- 3回～5回 人口転換と高齢者福祉の経緯と課題
- 6回～7回 環境・経済をめぐる福祉の問題【富の分配】
- 8回～10回 介護保険制度の概要【介護保険】
- 11回～12回 介護保険法改正後の課題
- 13回～14回 サービスの利用と運営・財政面の変化
- 15回 福祉にかかわる社会的排除とソーシャル・インクルージョン  
【ソーシャル・インクルージョン】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40%、授業への参加(報告等)60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域観光研究 【昼】

担当者名  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

- 現代における文化政策、社会政策にとって「観光」が重要なファクターとなっていることについての意味を考える（観光と政治について）
- 広い意味における、現代消費文化の「観光化」（例えば観光の日常化や日常の観光化）について考える（観光と現代文化について）。
- 観光化と人間の移動について考える（観光とグローバリゼーション）
- その上で観光化がもたらす社会問題について主に九州の実例をあげながら議論し、その解決策を考える。希望があれば調査の具体的方法も指導する（実証的研究）
- キーワードは消費社会と観光文化

## 教科書 /Textbooks

その都度指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年  
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学』明石書店、2005年  
その他 コピーした論文

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
参加する院生と相談の上、上記の4つのテーマから、院生の研究テーマにあった論文を選び出し、輪読しながら、議論を深める。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席20% レジュメ50%、発表30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

観光社会学、文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズに興味があり、知識があること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域社会演習 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 地域社会分野に関する個別具体の研究テーマを、履修学生と相談した上で決定する。ただし、一旦決定された個別具体の研究テーマについては、その後の変更は認めないので、履修学生の問題意識について、予め可能な限り明確にしておくことが望まれる。また、本演習の進め方として、履修学生の自主的な問題意識を解明することに寄与し得る柔軟かつ論理整合的思考方式の修得を、その第一義的な目的とする。したがって、学位論文の作成を視野に入れた購読、調査報告、研究発表などを行う。

**教科書 /Textbooks**  
 必要に応じて、個別具体的に指示する。

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 履修学生の理解度に配慮しつつ、履修学生の問題意識に応じたReading Assignment を課す。

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 履修学生の理解度に配慮しつつ、履修学生の問題意識に応じたReading Assignment を課す。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 市民政治思想研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：現代デモクラシー論  
 政治制度および政治システムの創造、改革、変革のプロセスと、それを支える政治文化（政治的価値体系）の変化との関係を、市民政治思想の視点から比較研究する。グローバル・デモクラシー、ラディカル・デモクラシーなどの現代デモクラシー論を形成するシテイズンシップ、自治、差異性、公共性など基本的なエレメントについて検討し、新たな政治、新たな市民社会のあり方について検討する。

## 教科書 /Textbooks

これまで、千葉真『ラディカル・デモクラシーの地平』（新評論）や山口定『市民社会論』（有斐閣）を手がかりに「新しい公共性」「新しい市民社会」について議論してきた。今年度は、受講生の研究テーマとの関係で、受講生と相談の上決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回-第2回 現代デモクラシー論について  
 第3回以降 受講生のテーマに応じた現代デモクラシー論の発表  
 第14回-第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席、発表などによる総合評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 市民経済思想研究【昼】

担当者名 /Instructor 小柳 公洋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

テーマ『市民社会論と経済学』  
市民社会とはなにか、また、いわゆる市民社会論はなにを問題にしているのか、これらを経済学はどのように見ているのか。これについて以下の序次で講義します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

第1回目の講義のときに一括して文献目録を配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 市民社会論とは何か。 ①グランドセオリーとしての市民社会論
- 2回 ②わが国市民社会論の形成と問題
- 3回 ③市民社会概念史
- 4回 ④近代市民社会形成の2類型 イギリスとフランス
- 5回 ⑤続き
- 6回 市民社会論の歴史的展開①Adam Smithの市民社会観
- 7回 ②Hegelの市民社会論
- 8回 ③Karl Marxの市民社会観
- 9回 ④Max Weberの市民社会観
- 10回 ⑤GramsciとHabermas
- 11回 現代市民社会論の諸問題①大企業と市民社会論 資本の論理と市民の論理
- 12回 ②市民社会の普遍性の問題
- 13回 ③『成熟した』市民社会のイメージ
- 14回 総括と討論
- 15回 続き

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文ないしレポート

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

文化としての日本語のあるべき姿を考えることの出来る人材の育成を目指した講義。  
日本語は、異文化との接触により発展してきたが、そのことを歴史的に検討していきながら、現在に及ぼしている影響にも触れ、日本語と文化との様々な問題を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

特にテキストは使用せず、適宜、プリントを使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義時間中に、必要に応じて、提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 あらまし
- 2回 漢字の受容と展開 1
- 3回 漢字の受容と展開 2
- 4回 漢字の受容と展開 3
- 5回 漢字の受容と展開 4
- 6回 漢字の受容と展開 5
- 7回 字音語の受容と展開 1
- 8回 字音語の受容と展開 2
- 9回 字音語の受容と展開 3
- 10回 字音語の受容と展開 4
- 11回 日本語の特徴 1
- 12回 日本語の特徴 2
- 14回 日本語の特徴 3
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート... 75%      出席点... 15%      平常点... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 英語圏の文化、特に文化の中枢を言語の体系としてとらえる立場から英語圏の言語文化を研究する。Genette、Chatman、Rimmon-Kenanらによって展開されている物語論 (narratology) ー語りの構造研究ーの観点から、英語で書かれた物語テキストの構造分析を行う。語り手の視点の特徴、語り手と「映し手」(reflector)の関係、語り手の潜在化の度あい、「映し手」の内的焦点化の深度等を順次分析する。テキストの構造分析の方法とそこから導かれる結論が地域の「市民言語文化」の質的向上にいかにか資するところが大きいかを講義のなかで示す。

**教科書 /Textbooks**  
 『英国小説の「語り」の構造』(開文社出版)

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 『鳩の翼』(講談社)  
 『ダロウエイ夫人』(みすず書房)  
 『若き日の芸術家の肖像』(新潮文庫)

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- 1 回序論
- 2 回『鳩の翼』叙述分析 1
- 3 回『鳩の翼』叙述分析 2
- 4 回『鳩の翼』叙述分析 3
- 5 回『鳩の翼』構造分析
- 6 回『ダロウエイ夫人』叙述分析 1
- 7 回『ダロウエイ夫人』叙述分析 2
- 8 回『ダロウエイ夫人』叙述分析 3
- 9 回『ダロウエイ夫人』構造分析
- 1 0 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析 1
- 1 1 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析 2
- 1 2 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析 3
- 1 3 回『若き日の芸術家の肖像』構造分析
- 1 4 回結論とまとめ
- 1 5 回予備

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 出席... 2 0 % 課題... 8 0 % 期末試験... しない

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 扱う小説をしっかりと読み込んでおく。課題にword fileで回答する。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 中国語文化研究【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

中国語は古代から現代まで長い歴史を持ち種々の変化を重ねて発展してきた。そして今日の中国語は、過去のさまざまな変化を引き継いだ結果、話し言葉としては無数の方言に分かれている。本講義では、中国語における音韻の変遷発展の歴史と現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして論じ、この視点から中国の言語文化の歴史と現状について考察する。

## 教科書 /Textbooks

佐藤 昭著『中国語語音史—中古音から現代音まで』白帝社、2002年3月

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』商務印書館、1988年
- 周振鶴・遊汝傑著『方言與中国文化(第二版)』上海人民出版社、2006年
- 遊汝傑著『漢語方言学教程』上海教育出版社、2004年
- 『中国語言地図集( Language Atlas of China ) Longman , Hong Kong, 1987
- 項夢氷ほか『漢語方言地理学—入門與実践』中国文史出版社、2005年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ( 【 】はキーワード)
- 1回～2回 中国語の中古音から現代音までの歴史の変遷( 1 ) 【中古音】 【近代音】 【声母】
  - 3回～4回 " ( 2 ) 【中古音】 【近代音】 【韻母】
  - 5回～6回 " ( 3 ) 【中古音】 【近代音】 【声調】
  - 7回～8回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴( 1 ) 【北方方言】 【北京語】 【東北官話】
  - 9回～10回 " ( 2 ) 【南方方言】 【広東語】 【客家語】 【福建語】
  - 11回～13回 中国各地方言音の収集とそれらの歴史のあるいは共時的な比較
  - 14回～15回 中国語方言音でよむ中国の古典詩 【読書音】 【白話音】 【唐代音】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 課題... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

院・社(前期)において、中国語学研究I(音声学)・中国語学演習I(音声学)を受講して研究の基礎を身につけておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 思想文化演習 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 地域における市民社会、市民文化の新しい構想・創造に寄与できるよう地域研究、地域政策研究の思想・文化的背景の基礎研究を行う。思想文化領域の担当指導教員が学生自身の自主的な調査研究活動を重視しつつ、教員との議論を通して問題解決に役立つ実践的で柔軟な思考方法を学生に修得させる。このため学位請求論文の作成を視野に入れた購読、調査報告、研究発表などを行わせる。

**教科書 /Textbooks**  
 受講生と相談の上で、決定する。

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 演習の中で、その都度提示する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 最初の演習において提示する。

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 総合的に評価する。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 人間環境研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 小共同体のサブシステム研究を軸に、環境認知、資源管理、分配と流通など、文化と環境の相互作用について、生態人類学的見地から学ぶ

**教科書 /Textbooks**  
 必要に応じて適宜使用

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 第1回 テーマの設定  
 第2回～第10回 ディスカッション

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 ディスカッション100%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 ディスカッションに必要な資料を各自集めておくこと

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 人間心理研究 【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 倫明 / Michiaki Kondo / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

人間の心理的側面である知の領域を取り扱う認知心理学の視点より、とりわけ外界を認識する視覚機能特性について基礎的側面を考察する。21世紀の課題である脳とこころの心理物理的関係について欧文原著をテキストとして使い、錯視現象を通して視覚認知特性について考察する。

## 教科書 /Textbooks

N.Wade (2005) "PERCEPTION AND ILLUSION" Springer  
(受講者にコピーを渡すので必ずしも購入する必要はない。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- N.Wade、近藤訳 『ビジュアルイリュージョン』誠信書房
- N.Wade、近藤訳 『ビジュアルアリュージョン』ナカニシヤ書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 錯視とはなにか？視覚心理学の基礎を学ぶ。  
【錯視】
- 2回～3回 視覚研究の歴史と基本的概念を学ぶ。  
【眼球】、【視覚光学】、【視覚野】
- 4回～14回 テキストを分担しPPTプレゼンテーションを行い、参加者で議論する。  
【ビジュアルイリュージョン】
  - 1 RECORDING OBSERVATIONS
  - 2 NATURE OF PERCEPTUAL ERROR
  - 3 NATURE OF VERIDICALITY
  - 4 THE TWENTIETH CENTURY – THE MULTIPLICATION OF ILLUSION
- 15回 授業内容のまとめとレポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、発表・議論60%、出席20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1回の授業でテキストの分担を行い、個人発表に備えてプレゼンの準備を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 多文化コミュニケーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

言語相対説という観点から見ると韓国語は、日本語と言語構造はうり二つでありながら、言語行動は全く異なり、むしろ英語話者のコミュニケーションスタイルに近いという点で興味ある対象である。この立場を踏まえて、これまで研究されてきた日本人と英語母語話者の言語行動の差異を基本的な座標として、韓国語話者がどのような位置にあるかを探っていく。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Kataoka & Ide (eds.) Culture, Interactio, and Language HITUZISHOBO

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースの概要説明
- 第2回 言語相対説をめぐる議論
- 第3回 翻訳と相対説
- 第4回 バイリンガルと相対説
- 第5回 英語話者と日本語話者との言語行動の差異概括
- 第6回 両者のポライトネス理論から見た差異、断り、など
- 第7回 両者のポライトネス理論から見た差異、依頼、など
- 第8回 両者のポライトネス理論から見た差異、誉め、など
- 第9回 両者のポライトネス理論から見た差異、非難、など
- 第10回 韓国語話者と日本語話者との言語行動の差異概括
- 第11回 両者のポライトネス理論から見た差異、断り、など
- 第12回 両者のポライトネス理論から見た差異、依頼、など
- 第13回 両者のポライトネス理論から見た差異、非難、など
- 第14回 韓国語話者と英語話者との言語行動の差異を支える文化的背景
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 70% short essay 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理論的な枠組みの理解だけでなく、実践的な作業が必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 文化交流史研究【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

江戸時代における北部九州は、長崎からの中国・西洋文化の中央への伝播のルートであるとともに、これらをいち早く受容しつつ独自の地域文化を形成してきた。ここでは前近代から近代にいたるヨーロッパ・アジアの文化交流と日本社会の西欧化というテーマを歴史学の方法論から考察したい。

## 教科書 /Textbooks

18世紀のオランダ語百科事典'ALGEMEENE WOORDENBOEK'または19世紀のオランダ語雑誌'NEDERLANDSE MAGAZIJN'をプリントで配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 板沢武雄『日蘭文化交渉史の研究』(吉川弘文館1959)
- 日蘭学会編『講談社オランダ語辞典』(講談社1994)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

翻訳文の提出 ...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

オランダ語のテキストの下読みをして来ること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東アジア政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

東アジア政治の本質を理解するため、そのルーツである中国政治を検証する。とくに中華民国、中華人民共和国における政治、政治思想を検証する。そこに流れる一貫した政治の本質を「賢人支配の善政主義」としてとらえ、様々な政治指導者、政治体制、政治理念を検討する。

## 教科書 /Textbooks

横山宏章『中華民国』中央公論社新書  
横山宏章『中華民国史』三一書房  
横山宏章『孫文と袁世凱』岩波書店  
横山宏章『中華思想と現代中国』集英社  
横山宏章『中国の異民族支配』集英社  
横山宏章『陳独秀の時代』慶應義塾大学出版会

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回は180分。講義と履修者の討論。  
1,2回 東アジア政治における中華思想と【賢人支配の善政主義】  
3,4回 【華夷秩序】と東アジア  
5,6回 【孫文】と国民革命  
7,8回 【陳独秀】と共産党  
9,10回 【蒋介石】と訓政支配  
11,12回 【胡適】の孫文、蒋介石批判  
13,14回 中華人民共和国と伝統的支配  
15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

討論とレポート  
討論50% レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国の近代史を理解しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東アジア経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、東アジア経済を総合的に学習することを目指す。まず、東アジア経済の発展過程を概観してその特徴を把握した上で、東アジア各国に大きなインパクトを与えたアジア通貨危機について検討する。そして、その後地域統合も視野に入れて活発になってきた東アジア地域での国際的ネットワーク形成の動向を把握して、将来に向けての東アジア経済の課題を学習する。

## 教科書 /Textbooks

授業時に必要に応じて指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、東アジア経済への視点
- 2回～4回 東アジア経済の発展過程
- 5回～7回 アジア通貨危機の経緯と影響
- 8回～11回 東アジア経済の国際的ネットワークの展開
- 12回～14回 東アジア経済の課題
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、授業での報告と議論、レポートなどから総合的に判断する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東アジア国際関係研究 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

近代の東アジア国際関係を日本、清国・中国、朝鮮・韓国の三国を中心に考察する。そのため、下記テキストの田保橋潔『近代日鮮関係の研究』の上を読解していきたい。それを通して19世紀後半から20世紀前半に至るまでの三国間国際関係の変容をうかがう。その際、三国の政治思想も比較分析する。分析方法は「構造相関的分析」、視点は「アジアから考える」という視点と「文明論的な視点」である。

## 教科書 /Textbooks

田保橋潔『近代日鮮関係の研究』上（朝鮮総督府刊、1941）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』（九州大学出版会、2004）
- 岡本隆司『属国と自主のあいだ 近代清韓関係と東アジアの運命』（名古屋大学出版会、2004）
- 田保橋潔『近代日鮮関係の研究』下（朝鮮総督府刊、1941）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要紹介。【構造相関的分析】、【アジアから考える】、【文明論的な視点】
- 2～4回 第1編。【朝鮮】、【西洋】、【伝統】、【近代】、【出会い】
- 5～10回 第2編。【日韓新関係】、【日韓交渉】、【征韓論】
- 7～14回 第3編。【日朝修好】、【清韓宗属関係】、【開港】、【壬午軍乱】、【甲申政変】
- 15回 まとめ 【東アジア近代を問い直す】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の発表とレポート、討論など

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習と復習をすること。ご自分で、近代東アジア国際関係の関連文献を多く読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東南アジア政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、アジア諸国の政治・社会・エスニシティに関する文献を輪読して、報告と質疑を行う。具体的なテーマは受講生の関心や知識によって決めるが、東南アジア諸国のナショナリズムと独立の過程、冷戦の東南アジアへの波及とその変容、開発政治体制と経済発展、社会主義国の発展と変容、開発政治体制の溶解と民主化などが、主なテーマとなる。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定するが、候補としては以下を考えている：  
○Michael Leifer ed., Asian Nationalism, Routledge, 2000

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 テキストとスケジュールの説明  
第2回～14回 全員でテキストを輪読し、質疑と応答を中心に議論しながら進めていく  
第15回 補足とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論 ... 70% 出席 ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東南アジア歴史文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国が抱える現代的課題を分析する上での歴史的・文化的アプローチについて考える。  
あわせて、オリエンタリズム的認識の克服方法について学ぶ。  
但し、受講者の研究内容を踏まえて変更する場合もある。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション  
第2回～第14回：分担を決めた上で、各人に報告してもらう。  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容及び議論への参加度 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東アジア社会圏演習 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

東アジア社会圏の政治、経済、文化を理論的・実証的に研究する。この研究は北九州市の地域研究、地域政策研究を補完する。東アジア社会圏担当指導教員が学生自身の自主的な調査研究活動を重視しつつ、教員との議論を通して問題解決に役立つ実践的で柔軟な思考方法を学生に修得させる。このため学位請求論文の作成を視野に入れた購読、調査報告、研究発表などを行わせる。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

国際協力 / 開発援助分野において、ますます議論が活発化している「平和構築」について、その内容や課題を学習することがこの演習の目的である。具体的には、国内紛争を経験した多民族国家における、復興開発援助を通じた紛争再発予防活動について考察を深める。取りあげる地域ならびに国家については、受講生と相談のうえ決定する予定でいる。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する予定でいるが、さしあたり候補としては以下の文献を予定している。  
Heijmans, Annelies, Nicola Simmonds, and Hans van de Veen eds., Searching for Peace in Asia Pacific: An Overview of Conflict Prevention and Peacebuilding Activities, Boulder: Lynne Rienner Publishers, 2004.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Mary B. Anderson, Do No Harm: How Aid Can Support Peace – or War, Boulder: Lynne Rienner Publishers, 1999.  
World Bank, Breaking the Conflict Trap: Civil War and Development Policy, Washington D.C.: World Bank and Oxford University Press, 2003.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には文献の輪読を行い、ディスカッション形式で進めていく。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、報告、ディスカッションへの貢献度をもとに総合的に判断する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 東アジア政治史研究 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
						○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

東アジア政治史研究に関する最近の研究書を輪読し、研究水準や方法に関する理解を深める。一ヶ月で一冊のペースで読み進める予定である。ややタイトかもしれないが、ついて来て欲しい。また、それと同時並行的に、草書体の解読技術の一端に触れていただく。

## 教科書 /Textbooks

小林道彦『政党内閣の崩壊と満州事変』（ミネルヴァ書房）、森靖夫『日本陸軍と日中戦争への道』（ミネルヴァ書房）。『演習古文書選・近代（上）』（吉川弘文館）、『くずし字解読辞典』（東京堂出版）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『五體字類』など。適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2回～14回 学生による報告とそれに対する指導。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 ( D)IA 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

1年次に博士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得させることを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集と検討、フィールド調査の方法についての指導を行い、研究テーマを具体化するための能力を養成する。博士論文作成のための研究計画概要書を作成させる。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 1A 【昼】

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
			○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 1A 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 ( D)IB 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

1年次に博士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得させることを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集と検討、フィールド調査の方法についての指導を行い、研究テーマを具体化するための能力を養成する。博士論文作成のための研究計画概要書を作成させる。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 1B 【昼】

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 1B 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 ( D)IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

2年次に博士論文作成のために、個別的・具体的な指導を行うことを目的とする。テーマの設定・資料やデータの収集分析の方法・論点の明確化及び執筆上の技術などについて指導を行い、博士論文作成資格取得のための予備論文を作成させる。学内の研究報告会等において予備論文を報告させる。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 2A 【昼】

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 2A 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 ( D)IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

2年次に博士論文作成のために、個別的・具体的な指導を行うことを目的とする。テーマの設定・資料やデータの収集分析の方法・論点の明確化及び執筆上の技術などについて指導を行い、博士論文作成資格取得のための予備論文を作成させる。学内の研究報告会等において予備論文を報告させる。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 2B 【昼】

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 2B 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the first and second year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 ( D)IIIA 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

3年次に予備論文を基にしてそれを一層拡充・発展させる方向で個別的・具体的指導を行い、学位請求論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 3A 【昼】

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the third year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 3A 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the third year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 ( D)IIIB 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

3年次に予備論文を基にしてそれを一層拡充・発展させる方向で個別的・具体的指導を行い、学位請求論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 3B 【昼】

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the third year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## Special Research Topics (D) 3B 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
				○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for the third year students. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorials. Students are required to prepare and submit a 'Thesis Research Proposal' by the end of November.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Multinational Corporations 【昼】

担当者名 /Instructor エリック・ラムステッター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course studies the methodologies economists use to analyze the behavior of multinational corporations (MNCs) and analyses of MNC behavior in Asian economies, with heavy emphasis on how to read and understand the empirical literature.

## 教科書 /Textbooks

Caves, Richard E. (2007) *Multinational Enterprise and Economic Analysis*, third edition. Cambridge, UK: Cambridge University Press.  
 Moran, Theodore H. (2001) *Parental Supervision: The New Paradigm for Foreign Direct Investment and Development*. Washington, D.C.: Institute for International Economics  
 Ramstetter, Eric D. and Fredrik Sjöholm, eds. (2006) *Multinational Corporations in Indonesia and Thailand: Wages, Productivity, and Exports*. Hampshire, UK: Palgrave Macmillan  
 その他の論文を約21編.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction, Caves ch 1
- 2 回 Caves ch 2, 3, 4
- 3 回 Caves ch 5, 6, 7
- 4 回 Caves ch 8, 9, 10
- 5 回 Other theory readings
- 6 回 Moran
- 7 回 Data issues
- 8 回 Determinants of MNC activities
- 9 回 Determinants of MNC activities (continued)
- 1 0 回 MNCs, growth, and productivity in Asia
- 1 1 回 MNCs, growth, and productivity in Asia (continued)
- 1 2 回 MNCs and wages in Asia
- 1 3 回 MNCs and exports in Asia
- 1 4 回 MNCs and producer concentration in Asia
- 1 5 回 Review for test; test

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文=50% 試験=20% % 担当する教科書論文の発表及びA4一枚のアウトライン=30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read texts (especially Caves) in advance; review the basics of (1) theory of the firm, (2) industrial organization, (3) international economics, and (4) econometrics

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 谷村 秀彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

#### 授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar is to develop students' theoretical knowledge and practical skills to carry out independent research in selected topics in the study of International Development Policy. Faculty members of the International Development Policy program participate in the seminar, individually or as a team, to work together with students to deepen their understanding of the field by applying their theoretical knowledge to policy oriented issues for finding meaningful solutions. In this seminar, students are required to show their own initiatives to explore the current frontier of research and to acquire practical skills necessary for initiating their individual research.

#### 教科書 /Textbooks

#### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

#### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

#### 成績評価の方法 /Assessment Method

#### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

#### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

#### 履修上の注意 /Remarks

#### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

#### キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor エリック・ラムステッター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

#### 授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar is to develop students' theoretical knowledge and practical skills to carry out independent research in selected topics in the study of International Development Policy. Faculty members of the International Development Policy program participate in the seminar, individually or as a team, to work together with students to deepen their understanding of the field by applying their theoretical knowledge to policy oriented issues for finding meaningful solutions. In this seminar, students are required to show their own initiatives to explore the current frontier of research and to acquire practical skills necessary for initiating their individual research.

#### 教科書 /Textbooks

#### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

#### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is offered in English only.

#### 成績評価の方法 /Assessment Method

#### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

#### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

#### 履修上の注意 /Remarks

#### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

#### キーワード /Keywords

## Economic Growth and Development 【昼】

担当者名 /Instructor ファン ウイガク / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to teach the basic framework of economic growth and development for first year graduate level. The course will focus on the stages of economic development, development strategy and policy (balanced v.s unbalanced growth, micro-economic and macroeconomic policies, etc.), and various growth models. Competitive advantage of nations and corresponding major strategic approaches will be discussed. The sources of both potential growth and development including input factors, institutions, technological and cultural factors, and the role of leaderships will be analytically discussed in the class.

## 教科書 /Textbooks

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- a: Barro, J. Robert and Xavier Sala-i-Martin, Economic Growth, MIT Press, 2004.  
Chapter 1, Chapter 4, Chapter 5.
- b: Porter, Michael E., The Competitive Advantage of Nations, The Free Press, 1990  
Chapters 1,2, 3,4, 7,8,9,10
- c: Hirschman, A., The Strategy of Economic Development, Yale University Press, 1956
- d: Yoshihara Kunio, Asia Per Capita: Why national incomes differ in East Asia,  
Curzon New Asian Library, 2000
- e: The World Bank, Development and the Next Generation, World development report 2007.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- The following subjects will be conducted:
- (1) Economic Growth vs. Economic Development with relevant topics.
  - (2) The Stages of Economic Growth and Patterns of Economic Development
  - (3) National Competitive Advantage
  - (4) The Neoclassical Growth Models
  - (5) Models of Endogenous Growth and other Growth Theories
  - (6) Growth Sources Analysis (1)
  - (7) Growth Sources Decomposition (11)
  - (8) Growth and Technology (1)
  - (9) Growth and Technology (11)
  - (10) Endogenous Growth with Special Attention to the Role of Human Capital
  - (11) Growth and Culture
  - (12) Growth and Trade
  - (13) Growth and Money (Finance)
  - (14) Empirical Analysis Approach for Understanding Growth .
  - (15) Regression Results for Growth Rates
  - (16) Summary and Discussions about Growth and Development

## 成績評価の方法 /Assessment Method

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords